

令和5年度第1回恵那市ICT活用推進委員会 議事録

日時：令和5年10月25日（水）午後1時30分

場所：恵那市役所西庁舎3階災害対策室A・B

1. 開会
2. 議事
 - ・第2期恵那市ICT活用推進計画の進捗について
 - ・ICTインフラ整備事業について
 - ・意見交換
3. 閉会

■委員

	選出区分	団体名	氏名
1	学識経験者	法政大学理工学部	藤井 章博
2	学識経験者	法政大学大学院	山崎 泰明（オンライン）
3	商工団体	恵那商工会議所	古山 紀昭
4	商工団体	恵那市恵南商工会	加藤 博靖（オンライン）
5	教育団体	恵那市小中学校校長会	安藤 一博
6	教育団体	恵那市PTA連合会	水谷 生余己（欠席）
7	防災団体	恵那市防災研究会	岩井 慶次
8	福祉団体	恵那市社会福祉協議会	紀岡 伸征
9	その他団体	恵那市地域自治区会長会議	平林 道博
10	副市長	恵那市	大塩 康彦

■DX推進監

1	情報政策課（ソフトバンク株式会社）	竹内 武司
---	-------------------	-------

（事務局）情報政策課 小林、鈴木、古田、原

1. 開会

■事務局 定刻となりましたので、これより令和5年度第1回ICT活用推進委員会を開催したいと思います。こちらの計画期間が令和6年度までの3カ年の計画となりますので、中間報告とさせていただければと思っております。

まず初めに委員の紹介につきまして、新たに交代された委員の皆さんのご紹介のみさせていただきますと思います。前年度から引き続きの委員の皆さまにおかれましては、お時間の関係で大変恐縮ですが、お手元に配布した名簿にてご紹介と代えさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは大変恐縮ですが、お名前を読み上げますので自席でご起立をお願いしたいと思います。安藤一博様、教育団体「恵那市小中学校校長会」からのご選出となります。

■安藤委員 よろしくお願ひします。

■事務局 ありがとうございます。平林道博様、「恵那市地域自治区会長会議」からのご選出となります。

■平林委員 よろしくお願ひします。

■事務局 ありがとうございます。また本日ご欠席となりますが、水谷生余己様、教育団体「恵那市PTA連合会」からのご選出となります。どうぞ皆様よろしくお願ひします。

本来であれば、委嘱書をお渡しするところですが、お時間の都合もありますので、机上にて配布させていただいております。ご了承いただきたいと思います。

本日の委員会ですが、この会場とオンラインで参加されている委員の方もおりますので、2会場ということで開催させていただいておりますので、よろしくお願いいたします。

また本日の委員会ですが、「恵那市附属機関等の会議の公開に関する要綱」に従いまして、原則公開としております。また会議録につきましても後日公表させていただきますので、ご承知おきいただきたいと思います。

それでは、オンラインで参加の山崎様は、常時カメラをオンにさせていただいて、ご発言の時にマイクをオンにさせていただくよう、よろしくお願いいたします。

続きまして、本委員会の委員長、副委員長ですが、昨年度選出させていただきました藤井様、古山様、お二方それぞれ委員長、副委員長の方よろしくお願いいたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。

これより次第に沿って進めさせていただきますが、議事に入る前に藤井委員長から一言ごあいさつをいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

■藤井委員長 改めて委員長を拝命しております藤井でございます。よろしくお願いいたします。お初にお目にかかる方々よろしくお願いいたします。日進月歩のICTの世界ですが特に最近ではAIが話題となっております、われわれ委員の古山さんや岩井さんも長くこのプロジェクトに関わっていますが、技術が日進月歩で検討することが次から次へと新たに出てくるという感じだと思います。ぜひともお力添えよろしくお願いいたします。

■事務局 ありがとうございます。これより議事に入りたいと思います。議事進行につ

いては、藤井委員長様よろしくお願ひしたいと思ひます。

■藤井委員長 それでは私の方で議事を進めさせていただきますが、基本的には今日は事務局の方々にご説明いただくというのが流れになっています。それでは事務局から第2期恵那市ICT活用推進計画の進捗状況についてご報告お願ひします。

2. 議事

- ・第2期恵那市ICT活用推進計画の進捗について
- ・ICTインフラ整備事業について

[事務局から資料に基づき説明]

■藤井委員長 駆け足でより多くの取り組みについて説明していただきました。どれも成果は目覚しい、委員会としても誇らしい思いを抱きながら聞いていたところです。これまで説明のあった内容については委員の皆様からご質問があればどうぞ。

■大塩委員 ちょっと事務局が自分たちは理解しているので、皆さんになかなか分かるように説明していたかどうかというところとちょっと私も心配になりましたので、どっかこれって何という話があったらゆっくり説明しますので、言っていただければと思ひます。

■岩井委員 スマートスピーカーの件ですが、以前の委員会でスマートスピーカーも音声告知器の代りとしてはいいねという話があったと思ひますが、ここでいきなりスマートスピーカーが飯地町に設置されますという話が唐突にでてきているのですが、こちらの経緯が分からない。防災に使えるというところはありがたいのですが、実際に使い勝手がいいのかどうかというところは検証されてないと思ひのですが。現在の音声告知器のFM告知はどうするのかという話がないということ。個人的に砺波市に電子回覧板の仕組みを視察してきたが、こういったところと整合性があるのかどうか。現在スマートフォン教室をやっていると思ひますが、この教室を何のためにやっているのか。以前は、スマートフォンで市の情報や回覧板などを音声告知器に代わるもので、アプリを導入しながら、やっていけるというようなスタンスがあったと思ひるので、スマートフォン教室も高齢者に対してはいいねという風に思ってきたのですが、いきなりスマートスピーカーになってくると、それではスマートフォン教室を何のためにやっているのですかというところがぼやけてくるし、焦点があってないように思ひのですが、その辺の説明をお願ひしたいと思ひます。

■事務局 前回の委員会の時に、スマートスピーカーの活用について話をさせていただいたと思ひますが、飯地町の地区は出ていなかったと思ひます。飯地町で展開していくことに関しては、あくまでも実証というところで進めようと思ひています。世帯数でいうと大体250世帯ほど、高齢独居の世帯が35世帯あるので、基本的には見守りから進めて、それ以外に岩井委員が言われた防災や行政情報の配信などでも使えるかどうかの検証を含めてやっていこうということで、人口規模や世帯数も勘案して飯地町を選定させてい

ただいた部分もありますが、ただ全てこれに置き換わるというのは、使ってみて良い部分悪い部分が出てくると思うので、全市的に広げていけるのかは検証の結果次第ではありますが、言われますFM告知の部分はどうするのかという兼ね合いもありますので、そこも含めて検討していかなければならない部分と考えています。さらに砺波市の電子回覧という話もありました。スマートスピーカーを使ってどういう形かわからないですが、回覧板的な使い方もできるのではないかという思いもありますので、何が使えて何が使えないか、例えばこのスマートスピーカーだと当然電源が必要になります。停電の時には今の音声告知器だと停電しても電池で動くというところがあるので、その部分をスマートスピーカーに関しては停電すると電源が必要になる、そもそもバッテリーがいるのではないかとか、そういったことも実際にはありますので、置き換えられるものかも含めて今後検証していきたいと思っています。あと、スマホ教室をやっていますが、特にターゲットとしては高齢者というところで行っています。高齢者に限らず市の情報を取得する、災害時というところでは防災行政無線、音声告知器、メール配信があるので、何らかの方法で情報を受け取ってもらいたいという思いがある。スマホについても一つの手段になる、防災情報に限らず、市の行政情報を取得する手段の一つとしてスマホも活用してもらいたい。そんな思いで、スマホを通してデジタルに慣れていただくという一つの入り口としてとらえている部分もありますので、よろしくをお願いします。

■岩井委員 恵那市としての施策として、これをやりたいからこれを行っているというスタンスだと思うのですが、そのへんがちょっと総花的。スマートスピーカーを否定しているものではなくて、そういったものもあればいいと思うのですが。今の時代は、スマートフォンを個々で持っている時代なので、逆にいうと高齢者の方にスマートフォンを貸与してもいいと思うのです。数的には、そういった費用対効果もあると思うのですが。そのために今スマートフォン教室をやっているよということならばストーリーが非常に明快だと思うのです。

あと電子回覧板については、今砺波市が色々研究されていて、ハンドブックにされたりと、一度に60%ぐらい確認できるのですね。あとご近所の方がその方の安否を手動で見に行って確認されるということで、ほんと3時間から4時間の間に90%ぐらい、子供さんもスマートフォンとかアプリで出来るので、確認もちゃんとできるのです。そういったことも検証しながらいいものをいれてもらったらいいいのかなと。ソフトバンクさんもみえるので、ソフト入れるだけなのでスマホなので、だから意外と簡単にできるし、電池も入っているし、メンテナンス自体も個人でやっているのですね。だからすごく費用対効果も行政としてはいいと思うのです。

■事務局 ありがとうございます。

■藤井委員長 スマートスピーカーはパイロットプロジェクトということの位置づけなのか。スマートフォンが行き渡っている状況であれば、全体としての底上げを意識していると。

■事務局 そうです。

■紀岡委員 こども園のICT化の関係で、教えていただきたいと思います。福祉とかの業界はICTが遅れていると思いますが、園の運営の中で紙の記録というのは保育士さんが大変だと思っています。この辺りですが、実際に導入されて記録の効率化まで今進みつつあるのかどうかというところと、あと、どこかの園をモデル的にやっているのか、全園、全市的にやっているのか伺いたい。実は恵那市社会福祉協議会のデイサービスセンターも紙の記録というのが大変煩雑であるということで、2年ほど前に業務改善アプリを入れましてそれでかなり効率化できたというのがあります。業務時間を削減しまして、その分を利用者さんに向き合う時間に充てる、まさにここに書いてある通りのことになると思いますが、ただ、苦手な職員もいると思いますので、その辺がどのように上手く進めていけるか伺いたいと思います。

■事務局 今、10の大きな業務というところで電子化を使用ということで幼児教育課、各園含めて委員会のようなものを立ち上げて話を進めてきた中で10業務を目標にしています。今、前に映してある業務という部分、名前シールは違いますが、赤い園児名簿、午睡記録、出席簿、ここの部分は既に全園デジタル化されています。あとの指導計画、要録など緑色の部分、職員シフトも含めてですが、7業務あります。この部分を今後全て電子化しようと進めています。特に登降園に関しては、記入漏れが無くなった、あと割と紙が一枚あって職員室に保管してある、そこに手書きで書く仕組みになっている。預かった先生がこの子何時位だったと後でまとめて記録するようなこともあったようなので、その部分の手間が省けるので非常に助かっているというのは聞いています。午睡記録に関しても横向きに寝ているとか上向きに寝ているかというのを5分か10分おきに記録しなければいけない。タブレットを持って行って上下とチェックすることで全て記録になるので、それを保護者にそのままこんな時間寝ました、こんなような態勢で寝ましたということもお知らせできるということで、これも助かっているということは聞いております。要録とかその辺に関しては、手で書いたりだとか調べたりだとする中で保育力が付くなどいろいろな考え方があるので進んでいない部分ではありますが、各園では10業務を電子化しようと進んでいます。一部先行して実施したわけではなく、全市的に行いました。直営と指定管理、全部で14園ありますが、いっぺんに横並びで進んでいこうということで進めました。最初は1園、2園に絞って先行導入させようという話もありましたが、いろんなところで保護者との繋がりがある中で、この園がやっていてこの園やってないというところや、やるのであれば全園やって改善点をいっぺんに出してもらった方が良いのではということもありましたので、これに関しては全園同時にスタートさせました。

■紀岡委員 全園同時スタートで皆さん同じようなことで行けたのか、得意な園やそうでない園もありましたか。

■事務局 あります。確かに得意な園となかなか手が付けられない園がありましたけども、操作研修だとかも結構頻繁にやったり、どんどん進めていけるような園は事例、こう

いう使い方すると良いよとかこういった使い方すると簡単にできるよという事を実際に研修会の中で紹介してもらったりして、皆使えるという思いで今進んでいます。

■藤井委員長 山崎さんいかがですか。

■山崎委員 先ほどのICTインフラの整備が以前から進むと言われていたのですが、実際進んできて、業務環境が向上することによって、行政サービス具体的に絵になってきました。市民の方にとって添いだすとか、より市の行政にアクセスしようとか、そういうところまで活発になってくるのではないかと、もっと定着してくるでしょうから楽しみだと感じました。

■藤井委員長 私からひとつ。RPAはかなり効果が出ている印象ですが、私の知識では結構値段が高いと前々から言われていて、予算措置との関連はどのように考えていますか。

■事務局 導入経費やランニングも含めて結構な金額になります。削減との時間数との兼ね合いで目標を90%ほど削減したいという方向で、時間数で今まで10時間かかっていたのを1時間に削減する、9時間分をロボットにやってもらうというようなところで、その時間数で職員がかかっていた時給というようなものを費用対効果の指標にできないかなというところを進めている。そうするとそれをペイできるのが9割を超えてくると効果がでてくると判断しましたので、導入当初の去年、今年というのは費用の部分が上回っているのですが、3年、4年ということになってくると逆転してくるという風に理解しています。

■藤井委員長 その辺は期待したいと思います。開発に職員の意見を反映させると効果があるとかその辺りはどうか。

■事務局 おっしゃる通りで、まず何の業務を選ぶかが大事なのと、選んだ業務の中でどの部分をロボットにやらせるのか非常に大事だと思っています。

■大塩委員 かみ砕いて説明してもらえるか。たとえば具体的にこんなものからスタートしてなど。

■事務局 例えば先ほど見ていただいたメールの展開、これは簡単にメールを開くだけの業務ですが、庁内業務システムのソフト、メールを開きますというところからロボットにやらせています。そこからメールを確認して、最後、添付ファイル、エクセルがありましたかその部分まで開かせて、それを保存するという動作をさせています。その一連の動作をロボットにやらせるのか、例えば保存の部分は職員がやった方が効率的なのかというところ、その業務のすみ分け、どこまでロボットにやらせるか、これはメールだけではなくて色々な業務にも同じことが言えると思いますが、その判断が大事というか効率性の部分で大きく影響が出てくるとなっています。職員によってやり方が違うだとか、もしかしたらワンクッション余分な作業をしているという場合もあるので、その辺の見極めもしながら導入しなければいけないと思っています。

■藤井委員長 丁寧な説明ありがとうございます。かなり先進的な取組で進んでいると思うので是非効果を期待したい。

■竹内DX推進監 恵那市はRPAの活用という意味ではかなり数も含めて、良い質を、工

夫などして第二段階にきている業務がいくつかありまして、是非その話をしたいのですが、プレミアム付き商品券入力業務というのは、去年A I - O C Rを使って市民から来た手書きの申し込みはがきを読み込むというのを去年やりました。今年もやっていますが、これは私も知らなかったが、現場と情報政策課で工夫し、A I - O C Rで読み込む字の数で実は課金が決まってくるというのを理解して、実はフォームを改善して認識率を上げながら課金を下げて読み取るというのを今年やっている。こういった工夫が現場で起きているので、まさにD Xで取り組んだからこそ得た経験を次に生かしている、おそらくこれは他の自治体では派手ではないですが非常にまじめな努力ということで紹介したいと思っていた。

■藤井委員長 他にいかがでしょうか。

■岩井委員 2ページのところで、障害者のアプリとありますが、どこまで、防災で言うと避難所、避難行動要支援者とか防災アプリがありますけども、そういう人が避難所に来た時に自動で読み取れるようになるのかなっているのか、それから国の方も変わってきているので難しいですけども要配慮者の方は福祉避難所に直に行きなさいよというように国も言ってきました、一般避難所でスクリーミングして福祉避難所に送るという時代ではなくなってきた。そうすると福祉避難所にこれを読み取る端末があるのかとか、そういったところまで考えていかないと避難の時には大変だと、従来の紙ベースの方が良いよという話になってしまう可能性があるのもその辺りを心配しました。

■藤井委員長 今の話は障害者の防災という観点の話で良かったですか。

■岩井委員 そうです。

■事務局 障害者手帳のミライロ I Dというものですが、スマホ上に障害者手帳の情報が表示されるので、提示された側がどう判断するか、それは障害者手帳の替わりになると判断できるのであれば使えると思うのですが、実際の活用に関しては色々な施設の減免だとかそういった用途が主になっておりまして、公共施設や観光施設でこれを見せると、従来だと障害者手帳の現物を提示する必要があったのが、持ってこなくてよい、どちらかという減免という使い方が主になっております。おっしゃられるとおりに今後、防災の観点からというところも多分あると思うので、事業者もありますので担当課含めて検討していきたいと思っています。

■岩井委員 今、そういう流れということで質問しましたが、結局マイナンバーカードと一緒に、最終的には運転免許証の機能まで入れるとか、なかなかならないですね。あれと一緒になんです。カードを持っているけど、どこで使えますかとか、実際それを持って避難所に行きましたけど、使えませんでしたでは意味がないと思うのです。その辺も踏まえた上で施策として取り組んでほしいと思いました。

■藤井委員長 大体質問は出尽くしたと思いますが、何かございますか。

■安藤委員 おばあちゃんが保育園の送迎を受けた、自分の孫のですね。自分が仕事場へ行って送るのを忘れて仕事を終えて自動車に戻ったら孫が熱中症で亡くなっていたという悲惨な事故がありましたけども、あれは、私も身につまされるというか、孫がいるとこれは怖

いなと思って、でも忘れてしまうこともあるのだと思って本当に身につまされた思いでしたけども、あれは下のお子さんをお母さんが見て、臨時でおばあちゃんに上の子を送って行ってということから始まったのですが、お孫さんのことをものすごくかわいがっていたということで、たまらんなと思った覚えがありますが、そのお父さんが前に保育園に送って行くのが遅れた時に連絡をいただいた。今回も連絡いただければ命を失うことが防げたかもしれないと言ってみえるのを聞いて、そこまで保育園に責任が負わされると辛いなと思いつつもやっぱり防げた部分があるのかなとも思ったのです。先ほどQRコードで登園の確認があったのですが、これが今の私たちの世代で言えばQRコードで登園確認をしておいてもおそらくデジタルでまとまったものを見て、実際の状態と子供がいるかどうかを確認すると思うのですが、ここから先デジタルが当たり前になると、真に受けてというとおかしいですが、そこだけを過信というか、それを絶対的なものにとらえていくようになってしまふかなと思うと怖いと思うところもあつたりするのですが、規定の時間に登園しないのはこの子だよと分かたら定期的に誰かに発信されるような、保護者ではなくて園の職員にアラームとして発信されていくような仕組みも作っていただくと良いのかなと思いました。子供の所在は中学生でも朝の登校が遅れているのかいるとかいないとかその辺りはかなり気を付けてやっていますので、今の中学校にQRコードを持ち込んでやるかというかそこではないかなと、こども園については、小さい子ですのでそれも必要だと思うのですが、一つそんなようなことを思いました。もう一つ、先ほどのRPAで時間短縮ができたのですよね。業務の効率化ができていくという話を聞きました。学校の中に昔はワープロから始まってコンピューターが入ってきて文書作成なんかは、かなり負担が軽くなって楽になってきている。いろんなところからメールで来るようになった時代を過ごしたのですが、デジタルが投入されることでかなり効率化が進んで仕事が楽になってきたといったら語弊があるかもしれませんが、その分こどもの指導に時間をかけることができるとそのたびに説明を受けながら、というかそういう触れ込みで日々の業務をしてきたのですが、効率が上がって時間が短縮された分、例えばメールなんかで言うともものすごくたくさん来るようになりますし、仕事が効率化できて本来業務に専念できるかというところでない一面もあるのでそこらへんは全体的な皆さんの共通理解でこういうものだという風で効率化ができた、時間が空いているからこれも出来るだろということが無いようにだけはしていただかなければいけないかなと思いつつも聞いておりました。

■藤井委員長 デジタル化が進んで効率化が目に見えてくるとさらに新たな課題も目に見えてくるということでしょうかね。

■岩井委員 保育園の関連でQR読むのですが、2子来た場合はどうなっているのでしょうか。お母さんが二人分のQRコードを読むのですか。

■事務局 そうです。二人を選べるのでこの子この子、兄弟とか。

■岩井委員 名前が表示されますか。

■事務局 名前が表示されます。QRコードでもできるし、一覧表から名前を選ぶこともで

きます。

■岩井委員 この前こども園に行ったらQRコードは読みづらくて何かやってみえたので。

■事務局 そうですね。まだ完全には、運用し始めたところということもあるので、QRコードの置く場所とか直射日光が当たるところでは読み取れないというようなこともあったので、そういう場合はタッチしておこなうような運用をしているところもあります。

■藤井委員長 それではこれで議事は終了ということで事務局に返します。

3. 閉会

■事務局 ありがとうございます。皆さんの貴重なご意見ありがとうございました。本日予定しておりました議事は全て終了いたしました。次回の委員会ですが、年度末、2月か3月に開催したいと思っております。改めて開催時期等ご連絡いたしますのでよろしくお願い致します。最後に古山副委員長様、閉会のご挨拶をお願いいたします。

■古山副委員長 4、5年前に始まったのですかね。初めて来たとき知らない単語がいっぱい飛び交って知らないイメージ、概念ばかりでえらいとこに来てしまったと思っていたのですが、来るたびに何となく分からないなりに少しずつ物事が動いているなという感じはしていました。ここにきて急にそれなりの形になってきたというか見えるものになってきたと何となく難じていますので、また次回来るともっと進んでいることを期待しておりますので、是非頑張ってやっていただきたいと思います。

[閉 会]